

# 国内最大の文化の祭典がやってきます

平成23年10月29日(土)～11月6日(日)

## 今年の秋は、まさに工芸の祭典

国民文化祭で南丹市は、美術展「工芸」と「工房と里の秋めぐりマップ」の2つの主催事業を実施します。

美術展「工芸」では、全国から募集したさまざまな分野の工芸作品を工芸に携わる著名な方々に審査をいただき表彰します。会場は、南丹市立文化博物館および南丹市国際交流会館を予定しています。現在、全国から工芸作品が寄せられています。

この美術展「工芸」と同時に南丹地域で活躍されている工芸家の皆さんの作品と、南丹市の新たな顔となっている園部の町家のたたずまいとのコラボレーション企画「町家展示」も予定しています。例年の工芸文化祭とは違った雰囲気の中で、工芸家の皆さんの作品をご覧ください、南丹地域の「ものづくり力」を肌で感じていただきたいと思います。

そのほかにも、市民の皆さんが生涯学習の一環として楽しく、丁寧に作り上げられた作品を展示する文化事業共同展示会や、障がいのある方が取り組む感性豊かな「ものづくり」を紹介する工芸作品発表会、子どもたちのすばらしい作品の数々を展示する『「美」と「和」で「輪ぶ」』南丹文化ジョイントプログラムの一環南丹工芸美術教育展もさらに充実した内容で同時開催します。

また、国民文化祭本番の今年も、もう一つ大きな展示会がやってきます。日本の工芸美術界をリードされ、京都を中心に活躍される工芸美術家の皆さんで組織される京都工芸美術作家協会の創立65周年を記念した京都工芸美術作家協会展の開催です。200点を超える工芸美術作品が南丹市立文化博物館に展示されます。ぜひ京都の工芸美術の創造性あふれる「美」の世界をご鑑賞ください。

このように期間中は京都ならではの、南丹市ならではのまさに「工芸の祭典」と呼ぶにふさわしい取り組みを多く予定しています。今年の秋をお楽しみに。

## 市民でつくる南丹いろいろマップ(仮称)に皆さんの情報をお寄せください

『工房と里の秋めぐりマップ 「南丹いろいろマップ」(仮称)』に皆さんのアイデアや情報をお寄せください。いろいろマップでは、マップを色分けし、色ごとに食べる・見る・遊ぶ・ふれるなどのテーマを設け情報発信を行うものです。現在、各家庭にアイデアや情報の提供をお願いするチラシをお届けしています。南丹市ならではの情報満載「南丹いろいろマップ」の作成に皆さんのご協力をお願いします。

採用させていただいた情報を提供いただいた方には、記念品を用意していますので、どしどしご応募ください。詳しくはチラシをご覧ください。

## ちよこつと用語説明コーナー

### 南丹市立文化博物館・南丹市国際交流会館

南丹市立文化博物館・南丹市国際交流会館は、南丹市役所本庁のすぐ横にあります。JR園部駅からバスを利用すると便利です。公園駐車場も整備されていますのでお車でお越しいただくこともでき、国民文化祭の間は、会場間をつなぐシャトルバスの運行やレンタサイクルの設置なども予定しています。会場周辺では、南丹市ならではの食をテーマにした「食の祭典」なども開催します。特にこの頃は園部公園内の紅葉が真っ赤に色づき見ごろを迎えます。

### 園部の町家

旧山陰街道と城下町の風景を残す園部の町並みです。JR園部駅から徒歩で約5分の新町エリアから始まる町家の家並みで商店街から国道9号線へと続きます。古いもので18世紀中ごろのものが残る園部の町家は、地域の歴史を知る上でとても貴重。妻入と平入と呼ばれる屋根が混在している点が珍しいといわれています。園部本陣周辺では、季節ごとにまちなか再発見グループによるまちおこしイベントが開催されます。今回はこの町家をお借りして、南丹地域ゆかりの工芸家の皆さんのすばらしい作品を展示します。



### 『「美」と「和」で「輪ぶ」』南丹文化ジョイントプログラム

平成19年度から始まったジョイントプログラムです。南丹市をはじめとする2市1町、京都府南丹広域振興局および南丹教育局が連携し、南丹地域の文化の振興、さらには、国民文化祭京都開催に向けた気運を高めるための取り組みです。「南丹工芸文化祭」、「南丹工芸美術教育展」、「次世代へつなぐ南丹地域文化フォーラム」の3本柱により構成されています。

### 京都工芸美術作家協会

京都を中心に活躍する工芸美術作家による会派を超えた作家団体です。昭和21年10月22日に創立され、陶磁、染織、漆、金工、人形、ガラス、截金、木竹、七宝、皮革などの多様な工芸分野で活躍される著名な工芸美術家の皆さんが参画されています。京都のみならず全国各地で展示会を開催し、平成13年には海外展も実施されました。